

### (1) 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (市町村提案型))

#### 【舟形町の取組み】

令和元年10月5日(土)に舟形町若あゆ温泉地内において最上地域の豊かな自然に感謝し、県民参加の森づくりを一層推進することを目的として、「最上地域森の感謝祭2019」が開催されました。

感謝祭当日は、最上地域の緑の少年団による最上地域産の間伐材を使用したベンチの製作や木工クラフト体験を実施しました。製作された木製ベンチとゴミステーションは、舟形町の教育施設等へ寄贈されました。

若あゆ温泉や学校・福祉施設など、人が集まる施設に木製品を設置することで、町内の老若男女が温かみのある木に触れる機会が増え、木製品への愛着の醸成につなげることが出来ました。

また、木工クラフトで製作した作品については、自分たちが生活の中で使用するものであったこともあり、愛着がわき、大事に使用していただいています。



### (2) NPOや地域のボランティア団体などによる森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (県民提案型))

#### 【花の風の会の取組み】

花の風の会は、新庄駅東口の植栽スペースを活用して、オープンガーデン「風の庭」の管理、整備を行っている団体です。

今年度は、会員と一般参加者が協力して花壇や歩道の整備、地元産材の杉チップ敷きなどを、大人から子どもまで協力して行いました。

通勤や通学、観光などで新庄駅を利用する多くの方に本事業で整備した「風の庭」を見てもらい、木の香りや温もりと触れていただき、森への関心を持ってもらうことができればと思います。



#### 【山と川の学校の取組み】

特定非営利活動法人「山と川の学校」は、最上町大堀地区を拠点として、子どもから大人まで幅広い層を対象とした森林体験学習を行っている団体です。

今年度は、「子ども体験の森」として、地域の小学生や、県外中学校の教育旅行での林業体験の受け入れによる枝打ち、間伐等の里山整備活動を行いました。

子どもたちは活動を通して環境保全の重要性や、活動を次世代に繋げていく大切さを学びました。



# 置賜地域における森づくり活動の取組み

(置賜総合支庁)

県民参加の森づくりの推進

## (1) 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (市町村提案型))

### 【米沢市の取組み】

米沢市では毎年、自然との触れ合いを通じて児童の水と緑を守り育てる心を養うため、学校林を活用した森づくり活動に取り組んでいます。

今年度は、10月2日に、米沢市立三沢東部小学校の小杉沢学校林で、全校による下草刈りと「ぼくの木、わたしの木」の測定などの自然観察を行いました。

1年生は、6年間観察するスギの木を決めて、自分の名前を書いた木製プレートを付けます。そして毎年木の直径を測定し、成長の状況をプレートに記録していきます。6年生には、自分の木の6年間の成長を確認するほか、1年生のプレート取付けや木の測定を手伝うなどの大切な役割があります。この活動を通じて、上級生が下級生を手助けする縦割り班の活動がしっかり身についていくそうです。

学校林では、鎌を使った草刈りや、長い年月のかかる木の成長などを実感し、自然や森林を守り育てることの大切さへの理解が深まっていました。



## (2) NPOや地域のボランティア団体等による森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (県民提案型))

### 【歴史の道土木遺産萬世大路保存会の取組み】

同保存会では、国道13号旧道の米沢市と福島県福島市を結ぶ区間である山形県側の栗子山隧道(萬世大路)散策路を活用して、市民や小学生の自然観察会を行っています。

参加者の安全を確保するため、散策路周辺の草刈りや倒木除去などの森林整備を行うとともに、今年度は散策路に自生する樹木の調査を行い、樹名板を作製し取り付けました。

9月5日には、万世小学校5年生(49名)の校外学習として、萬世大路の歴史と自然環境の学習を行いました。



### 【新田チェリー会の取組み】

同会は、体験学習を通して、日常生活の中で里山を活用する方法を次の世代に受け継ぎ、里山の活性化を図る取り組みを行っています。

今年度は、小学生とその保護者を対象にナメコやタモギタケの植菌体験を行うとともに、森づくり活動中の危険生物への対処法の学習会や焚火体験を行いました。

こうした活動により、里山に人が入って活用することの大切さと面白さを学ぶとともに、親子の絆が深まりました。



### (1) 市町村が地域の課題に応じて取り組む森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (市町村提案型))

#### 【鶴岡市の取組み】

県内最大の森林面積を有する鶴岡市は、西側は日本海に面し、多様な森林によって育まれる豊かな水産資源の恩恵を受けています。

そこで鶴岡市では、環境保全への関心を高めながら、「森・川・海」のつながりを含む豊かな自然を守り、良好な漁場環境を支えていくため、「魚の森づくり」として、身近な山に木を植え守り育てる活動を実施しています。平成9年度から油戸地区で開始したこの活動は、現在、堅苔沢地区と鼠ヶ関地区を合わせた市内3地区において、漁業関係者、地域住民、将来を担う子どもたちとの協働により実施しています。

今後も「魚の森づくり」活動を通して、豊かな水産資源を育む森林について、森林のもたらす自然環境への影響について周知を図るとともに、地域を支える大切な森林を次世代へと繋いでいきます。



### (2) NPOや地域のボランティア団体などによる森づくり活動

(みどり豊かな森林環境づくり推進事業 (県民提案型))

#### 【関未拓の会の取組み】

関未拓の会は、関川の未来を拓く活動に取り組む会として、集落の有志で組織されています。関川には、伝統的工芸品に指定される「しな織」があります。

「しなの木」の森づくり体験活動では、一般参加者を募り、しな織の原料となる「しなの木」の保育活動として枝打ちや「ひこばえ」探し体験、「しなの木」の皮はぎ体験などを行っています。今後も地域の文化を伝承する取組みを行っています。



#### 【鳥海やわたインタープリター協会の取組み】

鳥海やわたインタープリター協会は、主に酒田市八幡地域を活動拠点とする団体です。自然観察会や自然観光ガイド活動を通じ、人と自然のかかわり方や自然保護について理解を深め、地域の振興と発展に協力し、自然環境の保全等に寄与することを目的に活動しています。

近年は、主な活動であるトレッキングの他に、酒田市内の小学校の自然体験学習の講師として、子どもたちと共に自然に親しむ活動も展開しています。



# やまがた緑環境税PR活動の取組み

県では、県民の皆様へ「やまがた緑環境税」の趣旨や税収の使途など、制度全体の仕組みのほか、やまがた緑環境税活用事業実績の周知を図るとともに、森づくりの大切さについて理解を深めていただくため、各種イベントや普及啓発活動を行っています。令和元年度に実施した主な取組みを紹介します。

## ●「やまがた森の感謝祭2019」の開催

【6月1日 酒田市「山形県眺海の森」】

「自然の恵み 守ってつなごう 山形の森」をテーマに県内各地から1,030名の方が参加し開催しました。

参加者による記念植樹や緑の少年団によるウッドチップ敷きなどの森づくり活動を行い、また、会場の展示・体験コーナーは多くの人で賑わいました。



## ● 森林所有者を対象とした説明会の開催

県内各地の森林組合等が開催している森林所有者向けの事業説明会で、やまがた緑環境税活用事業についても説明されています。



## ● PRパネルの巡回展示 【29箇所】

各種イベントや大型ショッピングモールなどでパネル展を開催しました。パネルの展示にあわせて、木エクラフトの体験を行うなど、家族連れに周知を図りました。



## ● やまがた緑環境税普及啓発広報誌 森と人をつなぐ情報誌「もりしあ」の発行

【年2回、各20,000部】

「やまがた緑環境税」の認知度向上を図るため、事業の取組状況や森と人との関わりを親しみやすい内容で紹介しました。

より多くの県民の皆様にお読みいただくため、公共施設や金融機関、ショッピングセンターなど県内各地に配布しました。



## ● 新聞・フリーペーパー・ラジオ・プロスポーツを活用した普及啓発

【新聞広告：年1回 フリーペーパー：年3回 ラジオCMなど】

「やまがた緑環境税」の認知度50%（H27：45.1%）を達成するため、新聞広告やフリーペーパー、ラジオCM、プロスポーツを活用した普及啓発を行いました。



★今後もより分かりやすく、より身近に感じてもらえるようなPR活動に取り組んでいきます★